

○中国では当局が穏健な金融政策スタンスを示す中で、緩和期待が生じている。3/16の国務院金融委員会では、軟調な株式市場とオミクロン株の感染拡大を受け、景気・市場を下支えするために、PBOCに積極的な金融政策を求めた。

○ただし、必ずしも緩和一辺倒ではないとみられる。3/21に発表された銀行の貸出金利の指標であるローンプライムレート(LPR)は、銀行の資金調達コストが下がっていないことなどを背景に据え置きとなった。また、同日の国務院常務会議では金融政策に関して「ばらまき」をしないとしており、過度の金融緩和に対しては当局の慎重な姿勢がうかがえる。投機を助長するだけではなく、米FRBを始めとする主要中銀が引き締めに入る中で資本流出にも警戒しているためだろう。従ってPBOCは金融緩和を急がず、まずは3月の信用統計など経済指標を確認することとなる。

○ドル人民元は緩やかな下落基調（元高）が続いてきたが、2月末に6.3手前の水準で底打ちしている。ドル人民元が上昇に転じた背景としては、米国FRBが40年ぶりの高インフレを抑制するために2年ぶりにゼロ金利政策を解除する方向性を示したことや、地政学不安によるドル買いの動きのなかで、中国当局の緩和姿勢が意識されたこともあった。3/16のFOMC後にもパウエルFRB議長が大幅な利上げと年内に中立金利以上の利上げも辞さない姿勢を示すなど、FRBの更なるタカ派化からドル買いが一段と進行する可能性もある。

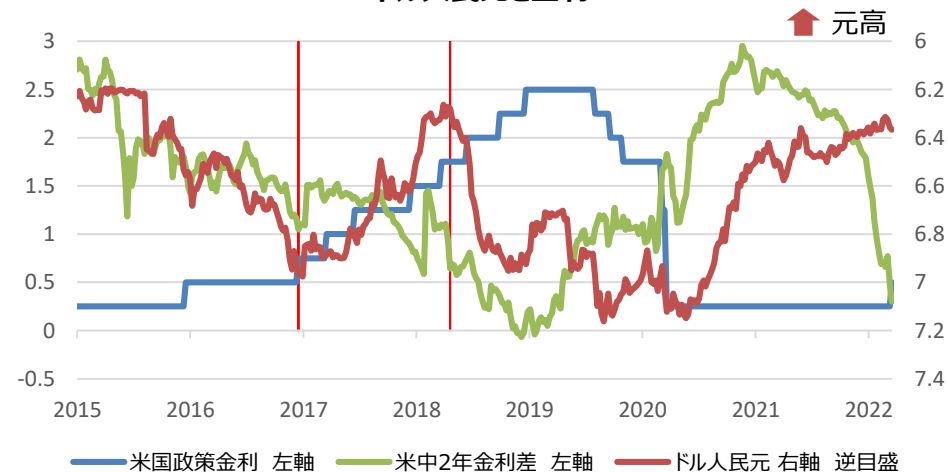
○しかし、前述のように中国当局は必ずしも緩和一辺倒ではないことを踏まえると、ドル人民元は必ずしも元安方向に転換するとは限らないだろう。過去の例を見ても、米利上げは必ずしも人民元安とはなっていない。例えば、2017年からのFRBの連続利上げに対し、人民元は堅調な中国景気や資本流出の管理を背景にむしろ対ドルで上昇した(右下のグラフで赤点線の間)。今回も人民元が中国当局の景気支援策によってサポートされ、当面ドル人民元はPBOCが望む「双方向の変動」になると予想している。

直近中国当局の金融政策に関する言及

日付	イベント	内容
3月5日	全人代政府活動報告書	穏健な金融政策の実行を強化する
3月16日	国務院金融委員会会議	金融政策は主体的な対応と新たな貸し出しでは適度な増加を維持することが必要
3月16日	中国人民銀行幹部会議	金融政策は主体的に対応し、新たな貸し出しでは適度な増加を維持する
3月21日	国務院常務会議	・穏健な金融政策の実態経済への支援を強化し、「ばらまき」をしない ・多種の金融政策ツールを利用し、十分な流動性及び貸出と社会融資の適度な増加を確保 ・人民元を合理的でバランスがとれた水準に保つ

出所: 中国政府サイト、中国人民銀行

ドル人民元と金利



出所: Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。